

令和7年度各務原市総合教育会議議事録

I 日 時 令和7年7月9日（水）午後2時00分～午後2時50分

II 場 所 産業文化センター7階第1大会議室

III 出席者

（構成員）

市長 浅野 健司

教育長 丹羽 章

教育委員 林 ゆり、小島 聡太郎、松原 裕子

（教育委員会事務局）

事務局長 伊藤 恭啓、次長兼スポーツ課長 飯沼 利行、教育総務課長 長縄 睦、

教育施設整備推進課長 福手 芳尚、教育施設管理課長 仲村 由紀、

学校教育課長 加藤 大志、青少年教育課長 神田 香里、文化財課長 西村 勝広、

中央図書館長 新居 美保、少年自然の家所長 奥村 謙司、

学校給食センター所長 片桐 章雄、学校教育課指導主事 小林 敬之

（市長部局）

企画総務部長 大矢 貢、企画政策課長 小林 広和、

産業活力部長 村瀬 誠、いきいき楽習課長 横山 美佳

（書記）

教育委員会事務局教育総務課 教育政策係長 西部 太輔

主任主事 砂川 雄哉

IV 内 容

1 市長あいさつ

2 協議・調整事項

学校再編について

V 協議・調整事項の結果

学校再編について

市 長 それでは、議事に入ります。担当課より説明をお願いします。

教育施設整備推進課長 （学校再編について、資料により説明）

学校教育課指導主事 （同上）

教 育 長 （同上）

市 長 説明ありがとうございました。まず、授業参観後に保護者説明会を実施していますが、その時の様子等をご紹介ください。

教育施設整備推進課長 率直に申し上げますと、私たちの学校が無くなるのかといったお怒りの方がいらっしゃるのではないかと懸念しておりましたが、そこまでの方はいらっしゃいませんでした。子どもの数が減ってきていることは、地元の方も実

感されていると感じました。説明会の最後にアンケートを提出いただき、集計途中ではありますが、今回の取組みの説明について、理解できないと回答された方はほとんどいませんでした。

理由欄も設けました。1クラスのままでは心配だという意見等もある一方で、小規模校とはいえ現時点では、1学年20名程度いますので、特別問題を感じないという意見もありました。この先、更に人数が減少していくと、その心配は顕著になっていくと思います。

また、地域柄、歴史や祭りがあって、ということで、できれば引き続き地区内でやっていきたいという意見もありました。

市長 それでは、教育委員の皆様のご意見をお伺いします。

林委員 地域の皆さんは、説明を理解されているということで、再編は着手しやすい時期かと思います。意見を聞きすぎると、10人いれば10通りの意見が出てきますので、なかなかまとまっていかなさうと思います。ある程度は、行政側で指揮を執り、流れを作って、進めていくのが良いのではないかと思います。

私は、小中一貫というのに馴染みがなく、保護者の中でも不安に思う方がいらっしやうと思います。説明をしっかりとしていけば、保護者の理解も得られるのではないかと思います。特に心配するのは、学校までどのように通学するかです。今までであれば、歩いて行けるところが、小中一貫校になることで、送っていかねばならないのか、といったことを踏まえて、保護者と連携を密にしていくことが良いと思いました。

小島委員 小規模校と老朽化による建て替えのどちらを優先して行うのですか。

教育長 同時進行です。

教育施設整備推進課長 老朽化による建て替え時期は到来しますので建て替えは必要です。建て替える際に、どこかと統合するかもしれませんし、そのまま建て替えるかもしれないということです。また、建て替えを伴わない統合もパターンとしてありえると思いますので、同時進行で検討していくということです。

小島委員 小規模校だけではなく、大規模校も含めた全域で考えていく必要があると思います。それには、土地や市予算の問題もあると思いますが、市内の学校が一定になるような検討を進めていった方が良いのではないかと思います。

教育長 全ての学校を対象に考えていく計画です。

小島委員 那加第一小学校、那加中学校と大規模校出身なので、小規模校の保護者の

思いが分からないところですが、メリット・デメリットが行政側のものを感じました。保護者側にも別のメリット・デメリットがあると思いますし、小規模校の方が良いという意見もあるかもしれませんが、そうしたことも把握いただけると良いと思います。

松原委員 子が緑苑小に通っていた保護者の立場としては、義務教育学校や小中一貫校に再編しなければならない時期なのは承知していますが、統合というのは、保護者にとっては未知の部分があります。恥ずかしながら、県内にこれだけの事例があることを知らなかったので、モデルケースを保護者に説明いただくことやヒアリングが大事だと思いますし、地域性もあると思いますので、まずは情報提供が必要だと思いました。

小島委員 子どもの数が減っていくのは確実だと思いますが、どの程度の期間の推計を把握していますか。

教育施設整備推進課長 最新の推計を現在進めているところであり、期間としては、30年、40年の推計を行っています。ただし、30年後、40年後はそれほど確実性がないため、10年に1回程度、見直しの必要があると思います。そのため、確たる計画としては、10年程度になると考えています。

小島委員 全国推計の出生率を見ても数十年早まっていると言われており、推計を過信すると危険だと思いますので、喫緊の課題であると感じています。

市長 本市人口は、10年ほど前に発表された国立社会保障・人口問題研究所の推計よりも上振れてはいますが、昨年度生まれた子の数が1,000人を下回ってしまったということで、本当に少子化が著しく進んでいると感じています。本市は、県内では、近年学校の統合・合併をしてこなかった市として、非常に珍しく、人口流入もあり、子育て世代も引っ越してくださっていました。残念ながら、最近では、地価が高いといったマイナスの面もありますが、住みたいと思っていただける方が多いので、今年度新たな取り組みを行います。

小規模5校を見ていただいて分かる通り、これらの立地は、私が生まれた頃に造成された団地、あるいは、調整区域です。調整区域は、なかなか家が建たないところですので、ライフラインが整っている、駅が近いといった調整区域については、家が建てられるようにする県内初めての取り組みを検討しています。

また、空宙婚、婚活に取り組んでおり、昨年度1回だったものを4回に増やしております。昨年度のカップリング率が45%と高い数値であり、これに味を占めたわけではありませんが、予算要求の際、副市長査定で落とされた後、市長査定で復活しました。そういった意気込みで、人口減少・少子化については、力を入れてやっていきたいと思っています。

そういった中、多分に漏れず、団地や市街化調整区域への人口流入については、すぐに結果が出てきませんので、中期的・長期的なビジョンも必要になると思います。10年後くらいの人口はある程度分かるにせよ、その先については、更に厳しい状況が待っているかもしれませんし、学校の形も変わっているかもしれません。

私も、教育長と同じような考えで、生まれた地域で生まれた地域の子どもたちとたくさんの友達をつくって社会に出てほしい、という考えを持っています。小規模校ではあるものの、まだ20人いるからといったお言葉もありますが、学校を回っていると、すごく仲が良いと感じる一方、ケンカをしろというわけではありませんが、少しいさかいがあり、そこでたくましさを培っていくという環境も必要なのではないかと考えています。そうしたことから、一定程度の児童生徒数は必要であると思います。

本日は、教育委員の皆様からも貴重な意見をいただきましたので、教育施設整備推進課長を中心に、学校教育課も連携を深めながら、教育委員会として、小中学校の再編について、しっかりとの方針を出していただきたいと思います。

先日の学校訪問では、尾崎小学校の後に那加第一小学校に行きましたが、人数の違いを目の当たりにしたところです。それぞれ先生方が良さを伸ばしていただいています、子どもたちが生きていく上で必要なものを検討していただきたいと思います。

それでは、議事を終了したいと思います。先ほども言いましたが、事務局においては、いただいた意見を十分に反映していただきたいと思います。市長部局としても、学校を建て替えるだけでなく、その地域の伝統行事、コミュニティの存続ということからも、連携を深めていくことが重要だと思いますので、教育委員の皆様の見解を賜りながら、より各務原市らしいものをつくってまいりたいと思います。では、進行を事務局に返します。

教育総務課長 本日は、長時間にわたり、ありがとうございました。これをもちまして、令和7年度総合教育会議を終了いたします。本日はありがとうございました。